

広島県まちづくり実行委員会 活動報告

報告日 2007年10月28日(日)

報告者 福屋労働組合 氏名 三満 謙介

開催日 2007年10月25日(金)

開催場所 福屋労働組合事務所

参加者 木原・三満・石川(福屋労組)、川畑、野坂(全ふじおか)、向園(JSD)

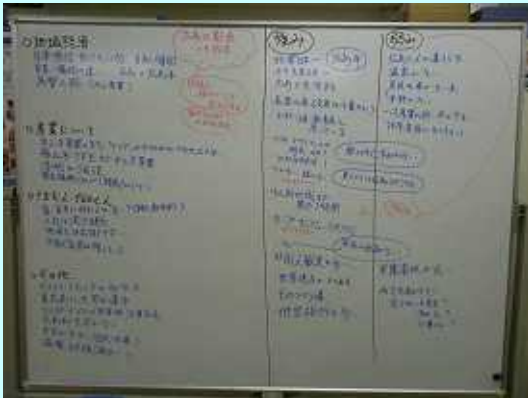
内容 「広島県の定量分析」ワークショップ

今年度よりスタートする「まちづくり活動 地域社会経済基盤を確立するための活動」のステップ1「状況を知る」として定量分析を行いました。

JSD本部より向園氏をお招きし、地域コミュニティに留まらない政策に繋げる「まちづくり活動」の説明を受けた後、日本総合研究所の資料「地域経済の見方」をもとにワークショップ形式で「広島県の状況」「強み・弱み」の意見出しを行いました。

『まちづくりフォトアルバム』

アイデア出しには欠かせないブレインストーミング法で行ったため、様々な視点での意見が抽出されました。



地元広島を分析するワークショップのためか、予定した時間をオーバーする盛り上がり。郊外や山間部出身者、他県出身者などが好き勝手に喋りまくった1時間となりました。

まとめ・感想 夜20時から開催したワークショップでしたが、意義あるものとなりました。

特に、広島=広島市という感覚がある中、「県」で捉えると「都会」と「田舎」が共存する日本の縮図であることが改めて浮き彫りになりました。人口113万人の政令指定都市(広島市)の中心地から車で1時間も走れば海も山も大自然が残っており、そこには農業や漁業の「まち」があります。過疎化で若者がいないような農家もあれば週末には都心から手伝いに戻っている現実もありました。(先生が農業の手伝いで授業を自習することをみんな経験していたのは笑えました)

都会の強み・弱み、田舎の強み・弱みもそれぞれありますが、都会と田舎の共存するのが広島県の強みであり、それを伸ばすのが「まちづくり」であるという結論で締め括りました。